

SSH活動報告

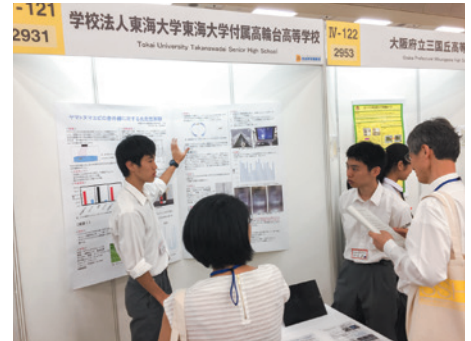
夏休みに行われた研究発表会

3年SSHクラスは、校外で活動する機会があります。自分たちの研究を口頭やポスターで発表したり、英語で発表や交流したりとたくさんの経験をしています。今回は、夏休みに行われた研究発表会の感想を書いてもらいました。

SSH生徒研究発表会

3年10組 青木 亮一郎

私たちは8月に行われた全国SSH生徒研究発表会に参加してきました。全国のさまざまな学校から多くの生徒が参加していたので、さまざまな研究を見ることができとても貴重な時間を体験することができました。1日目は丸一日発表を行い、審査委員の先生方も回られて分野ごとの優秀賞が決まります。2日目は前日の審査の結果発表と受賞校の全体発表会が行われました。受賞校は各分野から1校ずつ合計5校で、どれもとても素晴らしい研究内容と発表でした。自分たちの発表は満足いくものができたと思いますが、研究自体はまだまだだということを思い知りました。データの数が少ないことや、比較実験の種類が足りないことなどを審査委員の先生方に指摘されたり、まったく予想していなかった質問を受け答えることができず言いよどんでしまったりと、これからの改善点を多く見つけることができた発表会でした。



全国からたくさんの方が集まりました



口頭発表とポスター発表を両方やりました

プラズマ核融合学会

3年10組 天野 悠己

今回自らの発表を通じて、プレゼンテーション能力やポスター・パワーポイントをまとめる能力なども試され、自分の実力を知る良い機会になりました。

自分が研究したのは、転がり摩擦についてでしたが、結果測定と分析にとっても苦労しました。記録テープの点とにらめっこすることはとても疲れ、研究結果も過去のデータがない中で行っていたので、さまざまな苦労をしましたが、自分なりに満足できました。研究の過程で得た経験や知識は、これから生きていく上で役立つことと信じています。そして、研究で数々の助言をいただいた中村春樹先生に感謝したいです。

マスフェスタ

3年10組 山本 祐弥

私はSSHの活動を通して、数学というテーマをもとに、「流れ」と呼ばれる目に見えないものを題材にして研究を行いました。確率が絡む内容だったため、検証的な実験を主に行っていて、ピンゴマシーンをを使った実験では、試行回数が数千回という途方もない回数だったので、根気が必要でつらい経験だったのを覚えています。またそれ以上に、前例や資料の少ないこのテーマには、存在の手がかりを見つけるひらめきが必須でした。そのため、最終的にまとめた結果が発表前に覆るなんていうこともありました。こうして出来上がっていく結果を、ポスターやパワーポイントにまとめ上げて発表に使うのですが、この作業も、今でこそ簡単にできますが、今までのSSHでの経験がなければ難しかったです。発表自体は新幹線で大阪の関西大学まで出向き、他のSSH指定校の生徒や先生の前で発表を行いました。自分で真剣に行った研究だからこそ発表することは楽しく、他では味わえないとても良い経験ができました。



関西大学で発表しました